



山姿舞鶴

発行 同窓会
 編集 佐伯鶴城
 委員 小寺隆
 印刷 廣報社
 (有) 岡沢印刷

馬場の松



先日、初めて「お
 いた佐伯鶴城同窓会」
 に参加させて頂きまし
 た。卒業して25年にな
 りますが、年代を超え
 ての同窓会は初めての
 体験でした▼同級生や
 恩師との再会で、思い
 出話に花が咲いたのは
 もちろんです。初め
 てお会いする大先輩や
 後輩たちとの交流は本
 当に意義深いものであ
 りました▼また今回は三島由紀
 夫賞作家の小野正嗣さん（今年
 一月芥川賞受賞）のご講演を頂
 きました。グローバル化する
 社会の中でこそ、ローカル性が
 光るというお話は、私たち同窓
 生がそれぞれに心に刻んでい
 る愛校心が、普段の生活の中にお
 いて、人生を豊かにする大きな
 要因となっている事も気付かせ
 てくれました▼小野さんとは一
 年生の時に体育のクラスが一緒
 で親しくさせて頂いていました
 が、これほど有名な作家になら
 れた事は、同窓生として大きな
 誇りであり、私自身が忘れかけ
 ていた向上心のようなものを刺
 激してくれています▼私はこれ
 までそれほど愛校心を強く意識
 していませんでした。しかし遺
 伝子の発現は年齢が進むほど強
 くなるという説があるように、
 高校生活を通して私の中に刻ま
 れた鶴城のDNAは今確実に動
 き出しています。同窓会活動に
 参加させて頂き、少しでも母校
 への恩返しができるばと願って
 おります。

桑原宏史（高41回生）

グローバル化事業として「海外研修」を実施

五名の生徒がイギリスへ

今年も同窓生の尽力で海外研修を実施することができました。(8月4日～8月15日) 生徒のみなさんに感想を聞きました。



文化の違いを実感

一年 堤 悠稀

コミュニケーションをとる時に一番大切なのは積極性だと感じました。文化の違いを知ることができましたが、反対に日本の文化を伝えることもできませんでした。イギリスだけでなく、日本の良さにも気づけた、有意義な研修でした。

コミュニケーションの大切さ

一年 三股 条太郎

ホストファミリーとの日常会話を通じて「身振り手振りなど、ジェスチャーだけでは、自分が

伝えたいと思っていることは半分も伝わらない」ということを強く感じました。これからはテストに絞った勉強だけではなく、今回得た教訓を生かし、あの二週間の意義を今よりもっともつと大きくしていきたいと思っています。

英会話で世界が広がった

一年 尾形 萌子

今回私が一番身をもって感じたことは、英語を話すことができる世界が広がるということです。私は今回、イギリス人の他に同じ家にステイしていたフランス人の女の子、近くの公園で出会い一緒に遊んだポーランド人の姉妹、街でたまたま声を掛けてきたイタリア人の学生など、英語圏の人を越えて様々な国の人と話しができました。お互いの言語は違っていますが、万国共通の英語さえ話すことができたら、外国の方ともコミュニケーションがとれると改めて感じました。



じました。今回の海外研修のおかげで、英語が今までよりずっと好きになりました。これからは、私を成長させてくれた人たちへの感謝の気持ちを忘れず、学びを深めていきたいです。



この体験を活かしたい

二年 伊達 のぞみ

この海外研修での体験で、自分がどれだけ英語ができていたのか、どれだけ勉強すればよい自然な英語が話せたり聞いたりできるようになるのがわかりました。この体験を将来に活かすためにも、この二週間のことを忘れずに、学んだことを思い出しながら勉強していきたいです。

支えられた日々に感謝

二年 杉田 菜々子

今回の海外研修では改めていつも自分の周りにいてくれる人達のありがたさを感じる事ができました。たくさん大変なこともあり、途中で何度も帰りたくなりましたが、今ではとても貴重な経験ができ、行って良かったと思っております。ありがとうございました。



たと思っています。ありがとうございました。

真帆片帆

昭和45年度から47年度の三年間だったと記憶しているのですが、私の父が教頭として鶴城に勤務させて頂きました。父は自分の自宅に母と私たちを残し、当時市内の池船にあった民間の寮「清光寮」に寮監として起居しながら、朝から夜まで鶴城生と生活をともにしていたとの事です。

生徒たちとの触れ合いや生徒たちの成長の様子に目を細めながら、時には生徒たちに届かぬ思いを厳しい表情で。漠然と抱いていた教職への憧れが、私の中で大きく成長していったのはこの頃だったのでないかと思えます。親子二代での勤務となった鶴城。私も父と同様に生徒たちの傍らに居たいと、学校のすぐ近くに部屋を借りました。時折部屋を訪ねてくる妻の目には、学校での出来事や私の表情はどのよう映っているのでしょうか。後年脳の病気を患い意識も混沌とする中で、お世話になった施設での「七夕まつり」。おそらく生涯最後の願い事となったであろう短冊に『生徒たちに会いたい』と記した父が旅立つてから、四年になります。

佐伯鶴城高校 校長 馬場 宏之



土曜の夜になると一週間の佐伯での生活を終え、父が自分の自宅に帰ってきます。それから日曜日の夜に佐伯に向けて出発するまでの24時間が、我が家唯一の団樂の時間。まだ思春期には間があつた私にとって、父との会話は週に一度の心楽しい時間でした。父が語ってくれる佐伯の一週間の出来事。学校寮での

屋を訪ねてくる妻の目には、学校での出来事や私の表情はどのよう映っているのでしょうか。後年脳の病気を患い意識も混沌とする中で、お世話になった施設での「七夕まつり」。おそらく生涯最後の願い事となったであろう短冊に『生徒たちに会いたい』と記した父が旅立つてから、四年になります。

あっちこっち

同窓会はフル回転中

11月7日
小野正嗣氏 講演会
(二月月後芥川賞に)



熱心に聞いています

小野正嗣さん(41回生)

講演会開催

佐伯鶴城高校体育館で、芥川賞候補に3度も選ばれている作家の小野正嗣立教大学准教授の同窓会後援の講演会がありました。教職員、全校生徒をはじめ、保護者の方々や同窓会役員等700人を超える聴衆を前に「ローカルとグローバル」と題して「グローバル化が進む今日こそ、ローカル(地域の歴史や文化)を見直し大切にして未来に向って頑張つて」と後輩の生徒さん達に優しいまなざしで話され、印象深い講演会となりました。

総務委員長 木許 健(23回生)



年3回
会長を囲んでの
意見交換会

小寺新会長の下、より拓かれた愛される同窓会作りをモットーに、会長自らの出席を戴き、「同窓会をどうしようか!」の発想で、「在校生へ支援を、同窓生へ熱き心を、地域へ発信を、学校現場の生の声を」より反映した幅広く各年次の評議員のみなさんとの『会長を囲んでの意見交換会』を3度開催致しました。多数のご意見は今後の活動や反省材料としてすでに取り組んでおります。

本会は当初より2、3年間は実施したいと考えており、本年は2年目となり昨年とは違ったやり方、内容にて会長とともに再度チャレンジしてゆきたいと考えております。

改めて今後の同窓会活動の糧としたく、本会並びに同窓会に、皆様方のご意見、ご協力を戴けますようよろしくお願い申し上げます。

企画委員長 工藤義雄(26回生)

6月29日
関西同窓会総会
に行つて来ました

平成26年度関西佐伯鶴城同窓会総会(伊達徹会長)が開催されました。

山中正竹関東佐伯鶴城同窓会会長の基調講演に続いての懇親会、60名近い参加者の盛大な会だったのですが、「今年は人数が少ない」との声。例年の盛んな様子が想像されました。母校の甲子園出場をきっかけに組織された関西同窓会だけに「是非もう1度甲子園で校歌を!」との願いをこめた校歌の大合唱で幕を閉じました。



ファイナレの定番・校歌はどこも同じ

2014年 部活動成績

◎大分県高等学校新人大会

陸上部	男子	三原 基世(2年)	走幅跳	2位
		浦邊 諒大(1年)	走幅跳	5位
		木村 陸佳(2年)	走高跳	6位
		浦邊 遼遠・江藤 後藤	4×100mR	4位
		九州大会出場者	三原	
陸上部	女子	宮地 希音(1年)	100mH	4位
		古藤田早紀(2年)	走り高	2位
		出納のどか(2年)	走高跳	4位
		九州大会出場者	古藤田・宮地	
水泳部	男子	団体	3位	
		浜田 孝裕(2年)	100m平泳ぎ	2位
			200m平泳ぎ	3位
			50m平泳ぎ	3位
		石田 弘樹(2年)	200m個人メドレー	3位
			400m個人メドレー	4位
			200m自由形	5位
		寺嶋 駿(2年)	50m自由形	3位
			50mバタフライ	5位
		甲斐 政也(2年)	50m自由形	4位
			100m自由形	4位
			50mバタフライ	4位
		栗真寺竜一(2年)	400m自由形	5位
			200mバタフライ	5位
		二橋 英雅(1年)	200m平泳ぎ	5位
			200m個人メドレー	5位
			400m個人メドレー	6位
			50m自由形	6位
		東 遼大(1年)	200mリレー	3位
		寺嶋・石田・浜田・甲斐	200mリレー	3位
		石田・浜田・甲斐・寺嶋	200mメドレーリレー	3位
		九州大会出場者	石田・甲斐・寺嶋・浜田・栗真寺・二橋・東	
水泳部	女子	団体	1位	
		坂本 綾(2年)	200m平泳ぎ	1位
			50m背泳ぎ	4位
			100m背泳ぎ	4位
		原 珠実(1年)	50m平泳ぎ	1位
			100m平泳ぎ	3位
			200m平泳ぎ	3位
			200m自由形	2位
		佐藤萌々子(1年)	200m自由形	2位
			400m自由形	2位
			100mバタフライ	5位

森崎真里奈(1年)	200m個人メドレー	2位	
	400m個人メドレー	2位	
	100m自由形	5位	
	50m自由形	2位	
	100m自由形	3位	
	200m自由形	4位	
	400m自由形	3位	
	200m背泳ぎ	4位	
	50m背泳ぎ	6位	
	200mリレー	1位	
坂本・原・佐藤・森崎・寺嶋・大村	200mメドレーリレー	1位	
九州大会出場者	坂本・大村・原・佐藤・森崎・寺嶋・神野		
小野 雄大(2年)	個人総合	2位	
	平行棒	1位	
	つり輪	2位	
	跳馬	2位	
	鉄棒	2位	
	あん馬	2位	
	ゆか	2位	
剣道	男子	3回戦敗退	
		後藤 啓介(2年) 2位	
		九州大会出場 後藤啓介	
	女子	2回戦敗退	
		神崎 陽日(2年) 2位	
		山田 莉紗(2年) 3位	
		九州大会出場 神崎陽日・山田莉紗	
バスケットボール	男子	1回戦敗退	
ソフトテニス	男子	団体2回戦敗退	
		石田(1年)・川野(2年) バスト8	
		小畑(1年)・児玉(2年) バスト16	
		九州大会出場 石田・川野	
	女子	団体1回戦敗退	
		女子・2回戦敗退	
		高(2年) バスト16	
バドミントン	男子	1回戦敗退	
	女子	1回戦敗退	
弓道	男子	団体 決勝トーナメント1回戦敗退	
	女子	予選敗退	
空手道	男子	団体 2回戦敗退	
		形 5位	
	女子	個人 形 藤田美和(2年) バスト16	
		藤田美和(2年) バスト16	
卓球	男子	学校対抗 1回戦敗退	
		学校対抗 1回戦敗退	
		(春高バレー) 男子 バスト8	
バレーボール	男子	バスト8	
	女子	バスト8	

サッカー	(第93回全国高校サッカー選手権県予選)	1回戦敗退
ラグビー	ベスト8	
第135回九州地区高等学校野球大会	大分県予選	
野球	3回戦敗退	
長崎がんばらんぼ国体		
水泳	男子	渡辺一平 200m平泳ぎ 1位
		100m自由形 2位
短水路ワールドカップ(東京大会)		
水泳	男子	渡辺一平 200m平泳ぎ 3位(県新記録)
大分県高等学校文化連合等 成績一覧		
美術部		
第15回高校生国術美術展	佳作	2名
第32回高山辰雄ジュニア美術展	推奨	1名 佳作
第66回佐伯市美術展	美術協会奨励賞	1名
	ケーブルテレビ佐伯社長賞	1名
	佐伯文化振興会会長賞	1名
	入選	3名
第48回大分県美術展		
書道部		
第52回大分県古文連 席上揮毫大会	推奨	9名
第49回高野山読書大会	団体努力賞	
	毎日賞	1名
第21回 国際高校生選抜書展	秀作賞	2名
	入選	6名
九州山口地区優秀賞(学校賞)		
第44回佐伯市美術展	名誉会長奨励賞	3名
	書道協会奨励賞	3名
科学部		
第55回科学クラブ研究発表大会	研究発表の部(地学部)	最優秀賞
	24年度全国総文祭への出場権獲得	
第55回科学クラブ研究発表大会	ポスターセッションの部	優良賞
第58回 日本学生科学賞県審査(高校の部)		優良賞
吹奏楽部		
平成26年度大分県吹奏楽コンクール	金賞	
第64回 大分県高等学校音楽コンクール		
	木管楽器部門	金賞 藤田優(3年)
新聞部		
第64回大分県学校新聞コンクール		優良賞
第22回大分県手書き新聞コンクール		優良賞
第112回大分県高文連新聞研究大会(記事作成部門)		優良賞

(高校41回生)
小野正嗣氏 芥川賞授賞

第152回 芥川賞
「9年前の祈り」で受賞!!

ゆくて
健児の前途

井上 信吾 (高55回生)



日夜武を練り

祖父の家は、鶴城高校のバックネットの裏にあります。60年近く住んでいて、学校から校歌が聞こえてくると、一緒に口ずさんでいたそうです。機嫌の良い時は手拍子と合いの手を入れながら、声高らかに一挙に4番まで歌っていました。

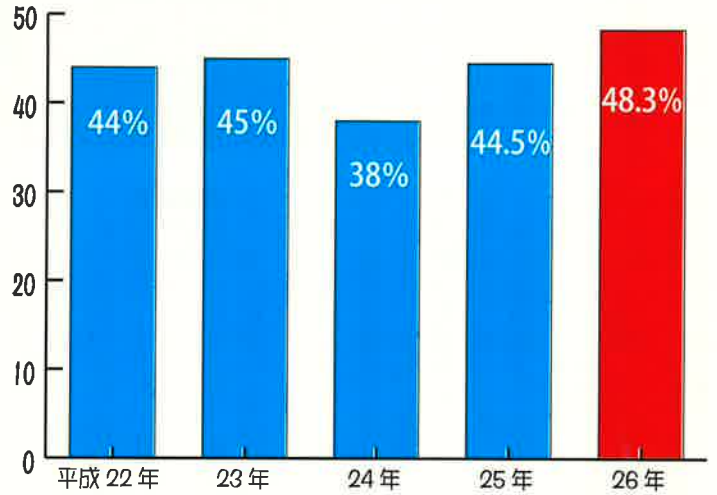
数年前、脳梗塞で失語症になっても校歌のメロディーだけは合っていて、家族で涙を流しながら歌ったこともありました。

その祖父が元気だった頃、1番の最後の1行「日夜技を練り文を練る」の箇所にかかる、本来の『武』と今の歌詞の『技』の違いを講釈し、若い世代に押しつけることはなかったけれど、自分はこだわりを持っていました。説教好きの祖父でしたが、私が祖父から学んだ大切なことは、人には強要せず、けれども自分は信念を持っていた校歌に対する姿勢だった気がします。

私の高校時代は、サッカーと生徒会、鶴城祭ではウォーターボーイズに取り組んだ3年間でした。ツアーコンダクターを目指して進学。しかし、就職して1ヶ月もたないうちに自分のやりたい事が見付き、今度は専門学校へ。友人たちの2倍の時間とお金をかけて今の仕事に就くことができました。回りから見れば、気ままに勝手な進路変更でしたが、祖父が最初に応援してくれたのが支えになりました。勉強していて何度もくじけそうになりましたが、「信念を持って自分の思うとおりにすればいい」と言ってきた祖父の言葉を思い出していました。

その祖父は昨年亡くなりました。今頃は天国で大勢の仲間と肩を組んで歌っていると思います。「日夜武を練り文を練る…」と。

平成26年度
今年もがんばりました。



国公立 「県南の雄」
健在です。
111名が合格

詩趣豊かなる



昨年年度より同窓会理事会の一員として、大先輩方と一緒に仕事をさせて頂いております。おかげさまで、卒業以来疎遠になっていた母校に久々に入る機会にも恵まれ、各世代の方々の想い出話を「なるほど! そうなんだ。」と聞きながら、楽しく活動している日々です。

先日広報委員会の会議で、広報誌の資料として過去の卒業アルバムを見ていたら、なんと祖母の高校時代の写真と遭遇しました! 驚きや嬉しさと同時に、改めて母校の歴史の深さを感じさせられた体験でした。これからも微力ながら同窓会活動に貢献できるような頑張りしたいと思います!

脇坂 健史 (47回生)



技と練り文を練る

ただいまホームページのリニューアルを進めています。今以上に同窓会の活動や在校生への応援ができればと思っています。

14x19 = 266